

みどりひと



みどりの新聞 平成20年12月20日 発行 No.146

連載

すぎなみ
きになる木

みんなの願いで残った

西荻の大ケヤキ



武蔵野の樹木を代表するケヤキは、区内では古くからある屋敷林に大木が生育しているほか、杉並区に選ばれている阿佐谷中杉通りの風格あるケヤキ並木など、多数見ることが出来ます。たくさんあるケヤキの中で、JR西荻窪駅から北西へおよそ五〇メートル歩いた西荻北四丁目三八番の南東角地、区立井荻公園の南側に、地域で「トトロの樹」と呼ばれて親しまれているケヤキが、歩みを止めて見上げるほどにこんもりと茂りそびえています。この樹は中央線（甲武鉄道）開通や関東大震災など、様々なまちの出来事と共に育った大木で、区の貴重木となっていました。

この樹をめぐっては、様々な人々の関わりがあります。土地を所有していたけれど手放すことになった所有者、開発のために土地を取得したものの、ケヤキを残してほしいという声に応えた企業、ケヤキを残したいと願った多くの人々、そして土地を確保することができた杉並区。たくさん緑が失われる中、水際で樹を残すことができた貴重な事例です。

しかし、今はまだケヤキが切られずに残ることになったに過ぎません。他の樹木と同様に、落ち葉や日陰といった問題を乗り越えなければならぬのです。ケヤキを守り育てる活動や、樹を優しく見守ることが、みんなの力で残ったケヤキを後世に育んでいく鍵となります。

今後、この樹がまちのシンボルとなり、春は新緑、夏は木陰、秋は黄葉、そして冬はひなたぼっこができる憩いの場所となるよう、区では整備していく予定です。



専門家に聞く

園芸ワンポイント

指導
南澤 乙亥
先生

みどりに関する専門相談は
塚山公園みどりの相談所
TEL 03-3302-9387 (毎週土・日曜日)

フクジュソウの植え込み

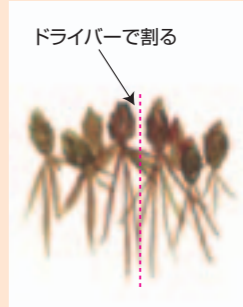
●庭植え

年中多少の湿り気があり、冬から春にかけて日がよく当たり、夏には日陰になる場所（落葉樹の下など）が最適。腐葉土をすき込み、10cmくらいの深さに根を広げて株をすえ、芽先がわずかに隠れるくらいに土をかけます。株の上に落ち葉や腐葉土をかけて乾燥を防ぎ、いったん植え込んだら4~5年は掘り上げないようにします。

●株分け

芽を痛めないようにして、根茎にマイナスドライバーを突き立て、こじるようにして割り、両手で根と芽をほぐすように引き分けます。株分けしたら、根を乾かさないうちにすぐ植え付けます。

ドライバーで割る

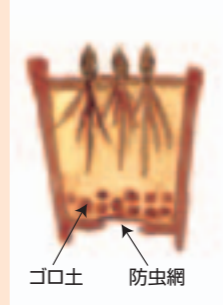


フクジュソウ（福寿草）キンポウゲ科

フクジュソウ属は北半球に広く分布。フクジュソウ（日本固有種）は北海道から九州まで分布、キタミフクジュソウは北海道東部・北部、ミチノクフクジュソウは本州北部から九州にかけて分布。

●鉢植え

鉢は固焼きの香炉鉢（深鉢のもの）6~7号に4~5芽つきの株を植え付けます。用土は庭土または赤玉土（小粒）に腐葉土3~4割、川砂1割ほどを混合します。長い根は切らずに巻くようにして鉢内に収めます（根を切ると生育が悪く、回復までに2~3年かかるので注意）。花は寒さと光に当たってから咲くので、屋外で管理し、肥料は緩効性のものを与えましょう。



ゴロ土 防虫網

●蕾が開かないとき

蕾が鞘鱗片の先を開けられず、開花できないときは、蕾を傷つけないようにして、鞘鱗片の先をさみで切り取ります。乾燥する時は霧吹きをします。



先端を少し切り取る

年間管理表（鉢植え）

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
育成状況	芽がでる	開花	葉がでる							休眠		
植付け株分け												
施肥			お礼肥									芽出肥
水やり	土の表面が乾いたらあげる			葉のない時期も忘れずに								
置き場	日当たりのよい場所							日陰に置く				



南澤乙亥（みなみさわおとい）
杉並区みどりの相談所専門相談員。樹医。
牧野植物同好会会員、小笠原野生生物研究会会員。

なみすけケーキ・ナミーケーキの売り上げの一部が、杉並区みどりの基金に寄付されます！

2008年7月に発売されてから、まもなく半年を迎える「なみすけケーキ」（¥390）、もうお召し上がりになりましたか？ 8月に発売された「ナミーケーキ」（¥390）と2人仲良くショーケースに並んでいます。ケーキを作った洋菓子店「シリアルマミー」（本天沼1-1-13）で購入できるほか、杉並区役所内および、井草、永福・和泉両地域区民センター内にあるカフェ「Fika Fika（フィーカ フィーカ）」で食べることもできます。ケーキの売上げの一部は「杉並区みどりの基金」へ寄付されます。空気をきれいにする特技を持つ、なみすけ。なみすけ&ナミーケーキをとおして、空気をきれいにしてくれるみどりを守り育てるためのみどりの基金にご協力！



編集後記 「みどりひと」はみどりのボランティアと協働で編集しています。

- 現在、イチョウを観察しています。一部黄葉しているものもありますが、落ちかかっているものがほとんどです。生えている場所や気象の条件によって違いがあるようです。（山）
- 今年も残り僅かになりました。来年こそ景気対策の効果を期待したいものです。（中）
- 環境博で好評だった「どんぐりクイズ」に、スタッフとして参加しました。いやあ、どんぐりって、ほんと楽しいですね。（羽）
- 冬ということばは「殖ゆ（ふゆ）」からきたという説があるそうです。植物たちもじっと春に備えて充電しているのだと思うと、寒い冬がとても大切な季節に思えてきます。（相）

みどりの新聞 みどりひと146号 平成20年12月20日発行

編集/みどりのボランティア
編集・発行/杉並区都市整備部みどり公園課 〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎03-3312-2111
「みどりひと」は区ホームページでもご覧いただけます。 <http://www.city.suginami.tokyo.jp/>



大豆インク使用。ケナフ100%紙使用。

緑の歳時記

杉並区内でよく見かける帰化植物



セイタカアワダチソウ (背高泡立草) キク科

北アメリカ原産の多年生草本

地中を横に走る大きな根茎から直立する茎を出し、高さは1~2.5mほどになります。葉は密に互生し、長さ6~13cmの被針形でザラザラした毛があります。花期は晩秋まで続き、茎の上部の枝先に直径5mmほどの黄色い頭状花を穂状にびっしりとつけます。

野山や空き地、川原の土手、線路わきなどに群生し、繁殖力が旺盛です。根から他の植物の成長を抑える成分を出すといわれています。

明治期に観賞用として持ち込まれ、また、戦後まもなく北九州に進駐した米軍の荷物についていたそう果から始まり、昭和30年代後半からまたたく間に全国に広がりましたが、現在では沈静化したようです。九州地方では閉山した炭鉱跡にはびこり閉山草とも呼ばれました。ちょっときれいな別名はセイタカアキノキリンソウです。嫌われ者の花ですが、秋の密源植物としては貴重な存在といえます。

そう果：果皮と種皮がくっついてしまった果実。例として、タンポポやヒマワリなどがあります。



環境博覧会すぎなみ2008

地球を救え
すぎなみ省エネ作戦
小さなエコから



杉並区みどりの基金にご協力いただきました

「環境博覧会すぎなみ2008」が10月18・19日、高井戸地域区民センターにおいて開催されました。第8回目となる今回、緑に関する展示では、どんぐりに関するクイズや、間伐した竹・剪定枝を使った工作など体験型のものもあり、子どもからお年寄りまでが楽しめるイベントとなりました。

また、イベントに「エコマネー」を導入。これは、来場者が企画の参加・体験に応じて集めたポイントを、会場内の買い物に使ったり、「杉並区みどりの基金」に寄付できる、というものです。2日間で集まった21,700円分のエコマネーは、環境博覧会すぎなみ実行委員会を通して寄付していただきました。他にも、みどりのボランティアや区内造園業者有志の方々にも、杉並区みどりの基金への寄付にご協力いただきました。ありがとうございました。

落ち葉感謝祭2008

参加しよう！
1万人の落ち葉掃き

夏には涼しい木陰をつくり、空気をきれいにしてくれた樹木に感謝しよう！というイベントが12月6日、中杉通りや井草森公園を中心に開催されました。落ち葉を「ゴミ」とせず自然の物質循環に戻す「みどりのリサイクル活動」の一環として行われ、今年で3回目になります。

朝9時、各会場に集合した参加者が「落ち葉感謝祭」というのぼり旗を掲げていっせいに落ち葉掃きを行いました。また、井草森公園では子どもに大人気の落ち葉プールが登場。ふかふかの落ち葉に飛び込んで、落ち葉がゴミではないことを体で感じているようでした。

邪魔者扱いされる落ち葉も、集めて腐葉土にすれば立派な資源。まずは落ち葉掃きなど、できることから始めてみませんか。



「(仮称)下井草いこいの森」開設準備中!

井草地域区民センターのすぐ南で、「(仮称)下井草いこいの森」(下井草5-1)の開設準備(来春開設予定)をしています。「いこいの森」とは、杉並区が地主の方から森を無償でお借り(=市民緑地契約)して区民に開放しながら保全する制度で、いなければ、地主さんの好意を区が具体的な形にした「善意の森」でもあります。区内では、これまで清水いこいの森、成田西いこいの森が開設されており、下井草は3カ所目となります。

(仮称)下井草いこいの森にはクスノキやムクノキの大木をはじめ、シラカシ、サザンカ、ツバキ、カエデ、ミズキ、キンモクセイ、サンショウ、ムクロジなど十数種類の樹木が豊かに繁茂し、一歩中に足を踏み入れると、陽の光が枝葉の間からかすかに差し込むほどに、都会で「自然の森」の中にいるような気分を味わうことができます。また、四季折々に、華麗な花々や色とりどりの木の実、新緑や紅葉・黄葉などを楽しむことができます。

杉並区では開設に先立ち、樹木の枯れ枝や枯れ木の伐採のほか、照明灯の設置などの整備を行います。また、みどりのボランティア杉並の皆さんによる草刈りや柵の設置なども行われます。「樹木の姿をそのまま残す」ことを基本としているため、ベンチや遊具、花壇などは設



けません。それだけに、一般の「公園」とはひと味違う「みどり」に親しむことができます。

この森は、これまでも地主さんの好意により開放されていましたが、これからは区が管理するので、気兼ねなく樹木に親しむことができるでしょう。みんなが楽しむことができるよう、利用にあたっては、犬の糞の始末、ゴミは捨てない、静かな散策など、ぜひともエチケットは守りたいものですね。



竹林の奥は巨大なクスノキ、周囲にはチャノキがあり、かつての屋敷林を彷彿させます。



杉並のみどりはどうなってるの?

—平成19年度杉並区みどりの実態調査報告 その3 樹木調査編—

みどりの実態調査は、区内のみどりの実態を把握するため、昭和47年より5年ごとに実施しています。調査は前号までに掲載した緑被率調査や接道部調査の他、樹木調査、樹林調査など10以上の内容です。

今回は、樹木調査の結果についてお知らせします。区全体では、直径30cm以上の樹木が36,099本確認されました。中でも多かったのはサクラで6,468本、次いでケヤキが5,790本でした。

区内で最も大きな独立木は上井草二丁目にあるケヤキで直径160cm、株立ちでは都立和田堀公園にあるヤマザクラで直径183cmあります。こういった大木などで、民有地にあるものは貴重木として指定されており、現在45本です。

大木を地域の貴重な財産として、所有者とともに、地域ぐるみで守り、育てていくことにご協力下さい。

